

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：32508

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20H04402

研究課題名(和文)SDGsと持続可能な開発独裁：アジア地域研究からの警鐘

研究課題名(英文)SDGs and Sustainable Authoritarianism

研究代表者

玉田 芳史(Tamada, Yoshifumi)

放送大学・京都学習センター・特任教授

研究者番号：90197567

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は民主化とSDGsの関係の解明であった。SDGsは開発のみならず、独裁体制をも持続可能にするのではないかと問い、研究に着手しようとした矢先にCOVID-19の世界的な流行が始まった。健康がSDGsの目標3であることに鑑みて、COVID-19に重点を置いた研究を進めた。感染拡大を阻止できれば、政権の正当性が高まった。他方、感染拡大阻止を大義名分として反政府勢力を弾圧することも可能であった。また、非民主的な政権であっても、SDGsへの献身のアピールに国際舞台で成功すれば、国際社会から賛辞を送られ、国内での自己正当化に利用できることも確認した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

2006年と2014年のクーデタで誕生したタイの軍事政権は国王を中心とした政治体制の護持を使命としており、この使命を遂行するためにSDGsを利用したことを明らかにした。1)COVID-19対策で、WHOなどから賞賛を浴びる一方、君主制批判を含む反政府運動を封じ込めた。2)コロナ・ワクチンの調達にあたって国王所有の製薬会社に優遇措置を与え、結果としてワクチンの接種に遅れが生じた。3)SDGsにことよせて国王提唱の知足経済哲学を国民に教育した。タイの具体的な事例をあげることによって、SDGsは悪用される可能性があることへの注意を喚起した。

研究成果の概要(英文)：Would the SDGs make not only development but also autocratic regimes sustainable? The aim of this study was to elucidate the relationship between democratization and the SDGs. Global pandemic of COVID-19 began just as we were about to embark on our research. Given that health is target 3 of the SDGs, we focused our research on COVID-19. If the spread of infection could be stopped, the legitimacy of the regime increased. On the other hand, it was also possible to suppress opposition groups in the name of stopping the spread of infection. It also confirmed that even an undemocratic regime could be complimented by the international community and used to legitimize itself domestically if it succeeded in appealing its commitment to the SDGs on the international stage.

研究分野：タイ地域研究

キーワード：持続可能な開発目標(SDGs) 民主化 権威主義体制

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

国連が旗を振り、世界中が官民を挙げて邁進しているように見える SDGs は、政治の民主化に寄与するのであろうか。民主主義に背を向ける権威主義政権が、SDGs に積極的に取り組んでいる様子を目の当たりにすると、楽観的にはなりにくい。そこで、アジア諸国で地域研究の観点から実態を解明してみようと思いついた。

### 2. 研究の目的

#### (1)SDGs が民主化に与える影響の検討

SDGs の開発目標群には政治の民主化が含まれていない。国際社会が SDGs を喧伝すればするほど、非民主的な政権であっても、SDGs への献身のアピールに国際舞台で成功すれば、国際社会から賛辞を送られ、国内での自己正当化に利用できる。SDGs は開発のみならず、権威主義体制をも持続可能にするのではないか。本研究はこれを問いとして、アジア諸国の具体例に基づいて、SDGs のそうした副作用を検討し、SDGs が健全に推進されることを目指した。

#### (2)権威主義政権の COVID-19 対策の功罪解明

本研究に着手しようとした矢先の 2020 年第 1 四半期に COVID-19(新型コロナウイルス感染症)のパンデミックが始まり、調査対象国への渡航が不可能になった。そこで、健康が SDGs の目標 3 であることに鑑みて、権威主義政権がどのような COVID-19 対策を講じ、それが民主化にいかなる影響を与えたのかを解明することを目指した。

### 3. 研究の方法

#### (1)フィールドワーク

研究組織の構成員は、タイ、マレーシア、ミャンマー、インドネシア、フィリピン、中国、韓国、インド、ロシアの政治を対象とし、現地語に堪能な地域研究者である。主たる研究方法はフィールドワークになるはずであったものの、コロナ禍で渡航が困難になった。それでも、研究期間中に可能な限り渡航するように努めた。

#### (2)文献調査

刊行物とオンラインメディアを通じて、対象国における SDGs と COVID-19 に関する情報を収集し、分析した。

### 4. 研究成果

#### (1) COVID-19 感染対策：反政府運動封じ込めに利用

中国のゼロ・コロナ政策に典型的に示されるように、COVID-19 対策は、COVID-19 だけではなく、反政府運動の封じ込めにも利用されることが明らかになった。

この点が鮮明なのはタイであった。タイでは 2020 年 2 月に入ると感染者が増加し始めた。政権は 3 月に非常事態を宣言し、集会を厳格に規制した。これが重要なのは、2020 年 2 月に国会の第三党新未来党(FFP)が解党処分を受け、それに反発する大学生が、タイ史上空前の規模となる抗議集会を全国各地で始めていたからである。解党の背景には、既存政党が尻込みしてきた君主制や軍隊が享受する諸々の特権の監査に FFP が積極的に取り組もうとしたという事情があった。

#### (2) COVID-19 感染対策：国際社会からの称賛

WHO (世界保健機関) に代表される国際機関は、政治体制の異同を問わず、COVID-19 封じ込めという結果を重視して、権威主義体制をも好意的に評価することがあった。これは COVID-19 だけに限らず、広く SDGs 全般と共通する問題である。

タイの軍事政権のゼロ・コロナ政策は、2020 年 5 月以後 COVID-19 感染者数を激減させた。WHO は 2020 年 11 月に、COVID-19 封じ込めの模範例としてタイを賞賛した。また、世界各国の健康危機対処能力を示す GHS 指数で、タイは 2019 年には世界 6 位であったものが 21 年には 5 位へと順位をあげた。これは 2020 年の封じ込めへの評価であった。

この成果は 2002 年導入の国民皆医療制度(UHC)に負うところが大きい。軍事政権は実際には UHC を敵視して改廃を試みてきたにもかかわらず、国際社会から COVID-19 封じ込めや UHC を賞賛されると、褒められたことを国内向けに宣伝して、政権正当化の一助とした。

#### (3)COVID-19 ワクチン調達を通じた権威主義補強

緊急を要する COVID-19 ワクチンの調達では、各国は WHO のワクチン配分事業 COVAX に参加した。東南アジアで唯一参加しなかったのはタイであった。タイで政権が 2020 年に決めたワクチン調達方針では、国王所有の SBS 社がアストラゼネカ社のワクチンを、政府から補助を受けてタイで製造し、政府が買い上げて摂取するという段取りになっていた。しかし 2021 年 4 月に感染の新たな大波が押し寄せたとき、SBS はワクチンをまだ供給できなかった。政府は、国民が切望する mRNA ワクチンではなく、高額で効果が弱い中国製のワクチンを輸入して摂取した。政府が mRNA ワクチンの調達に乗り出すのは、SBS の製造能力不足が確定した 2021 年 7 月以後のことであった。

政府はワクチンの調達にあたって、国民の健康よりもむしろ、ワクチン供給を通じた君主制の人気や権威の浮揚を狙っていたのではないかという猜疑の目を向けられた。そうした疑問を公言

した政治家は、不敬罪で訴追されることになった。

#### (4)SDGs を君主制奉戴に活用

SDGs (持続可能な開発目標)のうち、持続可能な開発 (sustainable development / SD)が、タイの 9 世王プーミポン (在位 1946 ~ 2016 年) が 1997 年から唱道する「足るを知る経済」 (sufficiency economy philosophy / SEP)と同一であると主張されている。国際社会が SDGs を推奨することは、SEP の賞賛につながり、君主制奉戴を最大目標とする権威主義政権には好都合である。そこで、タイの政権は、COVID-19 の感染状況が落ち着いた 2022 年 9 月に首都バンコクで SX2022 エクスポという行事を開催した。東南アジア最大と銘打つ SDGs 唱道行事であった。会場は、SDGs ではなく、君主制の礼賛一色であった。

#### (5)国際研究集会の開催

研究成果を開示し、意見交換を行うために、研究代表者の玉田が実行委員長を務めて京都で 2022 年 4 月に開催予定の第 14 回国際タイ学会で SDGs と COVID-19 に関するパネルを設けることにした。しかし、COVID-19 の感染状況が改善しないため、開催は 2023 年へ 1 年先送りされ、しかもオンラインとなった。

そこで 2 通りの発表方法を用いることにした。第 1 に、2023 年 1 月に「SDGs は何を持続可能にするのか、開発が独裁か」と題するオンサイトのセミナーを京都大学で開催した。タイからアッタチャック・サッタヤーヌラック(チェンマイ大学)、シリパン・ノックスワン、ウィエンラット・ネーティポー、プワントーン・パワッカパン(チュラーロンコーン大学)、プラチャック・コーンキーラティ(タムマサート大学)、クリッディコーン・ウォンサワーンパーニット(モンクット王工科大学)の 6 名の研究者を招き、対面での活発な討議を通じて SDGs が君主制奉戴に利用されていることへの理解を深めた。第 2 に、国際タイ学会では 2023 年 4 月 30 日に「COVID-19 ワクチンをめぐる政治」と題するラウンドテーブルを企画し、タイからシリパン、ウィエンラット、クリッディコーンに加えて、若者の政治運動に関する研究の第一人者であるカノックラット・ルートチューサクン(チュラーロンコーン大学)に参加してもらって、コロナ禍における政権の権威主義化について理解を深めた。

#### (6)まとめ

アメリカが 2021 年 12 月に開催した民主主義サミットに、10 カ国で構成される ASEAN から招かれたのはインドネシア、フィリピン、マレーシアの 3 カ国だけであった。21 世紀初頭には ASEAN 地域で民主化の先頭を走っていたタイは、2006 年以後権威主義化し、経済の成長も足踏みするようになってきている。民主主義を自称しながら、君主の政治介入を認めるという統治体制の歪みは、2016 年に 9 世王が崩御し、10 世王が即位すると一段と目立つようになった。この体制を懸命に支えたのが 2014 年クーデタで誕生したプラユット政権であった。この軍事政権は COVID-19 対策でも SDGs 推進でも君主制奉戴を最優先していた。SDGs は 9 世王提唱の知足経済哲学を光り輝かせる照明装置の 1 つにすぎなかった。

国民よりも君主制の優先を包み隠そうとしない政権の登場は、反政府運動の目標を政治改革から君主制改革へと変化させた。君主制中心の政治体制に不満を抱く国民は、政治経済の構造改革を提唱する政党 MFP を 2023 年総選挙で第一党に押し上げた。王党派は MFP の政権獲得を阻止するため、2005 年以來の宿敵タクシンと手を組み、さらに MFP を解党しようとしている。権威主義体制の美辞麗句や巧言令色に惑わされることなく、民主化阻害のためにどのような手段が用いられるのかを注視していく必要がある。

#### 参照文献

- 玉田芳史. 2021 「タイと SDGs」『タイ国情報』 55(1) : 1-15
- . 2021. 「ワクチンをめぐる政治」『タイ国情報』 55(3) : 1-14
- . 2021. 「ワクチンをめぐる政治 (その 2)」『タイ国情報』 55(4) : 1-14
- . 2021. 「ワクチンをめぐる政治 (その 3)」『タイ国情報』 55(5) : 4-20
- . 2022. 「COVID-19 と国体危機」『国際情勢紀要』 92 : 157-180
- . 2023. 「タイにおける SDGs の政治利用」『国際情勢紀要』 93 : 179-190

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計44件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 27件）

1. 著者名 玉田芳史	4. 巻 55(3)
2. 論文標題 ワクチンをめぐる政治	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 タイ国情報	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 玉田芳史	4. 巻 55(4)
2. 論文標題 ワクチンをめぐる政治（その2）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 タイ国情報	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 玉田芳史	4. 巻 55(5)
2. 論文標題 ワクチンをめぐる政治（その3）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 タイ国情報	6. 最初と最後の頁 4-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 玉田芳史	4. 巻 55(6)
2. 論文標題 政党をめぐる新展開：危ない冒険	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 タイ国情報	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 玉田芳史	4. 巻 56(1)
2. 論文標題 体制転覆判決：国体をめぐる闘争	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 タイ国情報	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 玉田芳史	4. 巻 56(2)
2. 論文標題 そわつく政権と政党	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 タイ国情報	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 玉田芳史	4. 巻 92
2. 論文標題 COVID-19と国体危機：タイにおける脱民主化をめぐる攻防	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国際情勢紀要	6. 最初と最後の頁 157-180
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 KUSAKA Wataru	4. 巻 10(2)
2. 論文標題 Rise of 'Business-Friendly' Local Elite Rule in the Philippines: How the Valdezes Developed San Nicolas, Ilocos Norte	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Southeast Asian Studies 10(2)	6. 最初と最後の頁 223-252
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20495/seas.10.2_223	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上田知亮	4. 巻 65(3)
2. 論文標題 パンデミックとインド州議会選挙：新型コロナウイルス感染症は投票行動を左右したか？	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東洋法学	6. 最初と最後の頁 45-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34428/00013229	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 中西嘉宏	4. 巻 3(3)
2. 論文標題 ミャンマーの安全保障観と2・1クーデター	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 安全保障研究	6. 最初と最後の頁 33 - 42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西嘉宏	4. 巻 704
2. 論文標題 ミャンマーは破綻国家になるのか 政変後の混迷と新たな展開	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際問題	6. 最初と最後の頁 41 - 49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西嘉宏	4. 巻 67
2. 論文標題 クーデターから四ヶ月「革命の曲がり角」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 112 - 118
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西嘉宏	4. 巻 135(5)
2. 論文標題 国軍による弾圧は続くのか? ミャンマー政変四つのシナリオ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中央公論	6. 最初と最後の頁 142-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西嘉宏	4. 巻 943
2. 論文標題 ミャンマー政変 その背景と構造	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 18-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西嘉宏	4. 巻 66
2. 論文標題 呉越同舟の限界・ミャンマーのクーデター : 根深い対立、混乱は長期化の懸念	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 98-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西嘉宏	4. 巻 520
2. 論文標題 乗っ取られたミャンマーの民主主義	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Voice	6. 最初と最後の頁 134-141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 KIMURA Kan	4. 巻 4(2)
2. 論文標題 Decolonization and Governmental Parties in Post World War II Era: The Newly Independent States and Decmocratizaion in Perspective	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Asian Journal of Arts, Humanities and Social Studies	6. 最初と最後の頁 35-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木絢女	4. 巻 10
2. 論文標題 マレーシアの新型コロナウイルス対策にみる国家	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 マレーシア研究	6. 最初と最後の頁 54-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 玉田芳史	4. 巻 53(3)
2. 論文標題 タイにおける法治国家と法の支配：トンチャイの歴史分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 タイ国情報	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 玉田芳史	4. 巻 53(4)
2. 論文標題 政党と内閣改造：第2次ブラユット政権発足から1年	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 タイ国情報	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 玉田芳史	4. 巻 53(5)
2. 論文標題 学生の反政府運動：なぜ、いつ、どこで、誰が、何を？	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 タイ国情報	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 玉田芳史	4. 巻 54(6)
2. 論文標題 若者の政治改革要求と君主制	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 タイ国情報	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 玉田芳史	4. 巻 56(1)
2. 論文標題 タイとSDGs：これでいいのか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 タイ国情報	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 玉田芳史	4. 巻 56(2)
2. 論文標題 汚職責任追及：何を叩くのか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 タイ国情報	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 玉田芳史	4. 巻 938
2. 論文標題 2020年タイ反政府デモ：沸き起こる君主制改革要求	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 4-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 玉田芳史	4. 巻 697
2. 論文標題 2つの病と1つの封じ込め策：コロナ禍のタイ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際問題	6. 最初と最後の頁 37-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 玉田芳史	4. 巻 91
2. 論文標題 学生による政治体制改革運動：2020年のタイ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際情勢紀要	6. 最初と最後の頁 202-225
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上田知亮	4. 巻 158
2. 論文標題 インドの新型コロナウイルス感染状況と政治：東ノ北東インド	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 インド経済フォーラム	6. 最初と最後の頁 13-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田知亮	4. 巻 159
2. 論文標題 新型コロナウイルス問題をめぐり西ベンガル州政府と連邦政府が対立	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 インド経済フォーラム	6. 最初と最後の頁 13-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田知亮	4. 巻 160
2. 論文標題 西ベンガル州とオディシャ州でのサイクロン被害と新型コロナウイルス問題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 インド経済フォーラム	6. 最初と最後の頁 16-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田知亮	4. 巻 161
2. 論文標題 東部・北東部諸州における新型コロナウイルス対策	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 インド経済フォーラム	6. 最初と最後の頁 17-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田知亮	4. 巻 168
2. 論文標題 草の根会議派からの離党者続出と議員のワクチン接種問題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 インド経済フォーラム	6. 最初と最後の頁 14-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日下渉	4. 巻 22
2. 論文標題 フィリピン2019年中間選挙 ドゥテルテによる「例外状態」の常態化	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ワセダ・アジア・レビュー	6. 最初と最後の頁 15-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 KUSAKA Wataru and YOSHIZAWA Asuna	4. 巻 9(1)
2. 論文標題 The Arts of Everyday Peacebuilding: Cohabitation, Conversion, and Inter-marriage of Muslims and Christians in the Southern Philippines	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Southeast Asian Studies	6. 最初と最後の頁 67-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20495/seas.9.1_67	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 河原祐馬	4. 巻 70(3-4)
2. 論文標題 ロシアにおける「反汚職の政治」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 岡山大学法学会雑誌	6. 最初と最後の頁 37-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 KIMURA Kan	4. 巻 28(1)
2. 論文標題 Betraying Democratization?: Media Narratives, Mass Protest and Presidential Impeachment in South Korea	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際協力論集	6. 最初と最後の頁 35-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村幹	4. 巻 28(2)
2. 論文標題 第二次世界大戦前における「植民地」言説を巡る一考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際協力論集	6. 最初と最後の頁 103-135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 SUZUKI Ayame	4. 巻 -
2. 論文標題 The Philippines' Response to COVID-19: Limits of State Capacity	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Corona Chronicles: Voices from the Field	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 SUZUKI Ayame	4. 巻 5
2. 論文標題 State's Capacity and Scope Do Matter: Data Exploration and Case Studies of Selected Southeast Asian Countries	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 De Lasalle University Arts Congress Proceedings	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 玉田芳史	4. 巻 57(1)
2. 論文標題 SDGsとSEP	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 タイ国情報	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 玉田芳史	4. 巻 57(2)
2. 論文標題 どうするトゥーおじさん	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 タイ国情報	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 玉田芳史	4. 巻 93
2. 論文標題 タイにおけるSDGsの政治利用	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 国際情勢紀要	6. 最初と最後の頁 179-190
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 日下 涉	4. 巻 66(2)
2. 論文標題 ドゥテルテの暴力を支える「善き市民」 フィリピン西レイテにおける災害・新自由主義・麻薬戦争	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア研究	6. 最初と最後の頁 56-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kusaka Wataru	4. 巻 68(3-4)
2. 論文標題 Duterte's Disciplinary Quarantine: How a Moral Dichotomy Was Constructed and Undermined	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Philippine Studies: Historical and Ethnographic Viewpoints	6. 最初と最後の頁 423-442
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 玉田芳史
2. 発表標題 Roundtable: Politics of Covid-19 vaccine
3. 学会等名 International Conference of Thai Studies (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 日下渉・青山薫・伊賀司・田村慶子（編著）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 388
3. 書名 東南アジアと「LGBT」の政治 性的少数者をめぐって何が争われているのか	

1. 著者名 中西嘉宏	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央公論社	5. 総ページ数 252
3. 書名 ロヒンギャ危機 「民族浄化」の真相	

1. 著者名 鈴木絢女	4. 発行年 2024年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 305
3. 書名 林田秀樹編 『ASEANの連結と亀裂：国際政治経済のなかの不確実な針路』の第17章「東南アジアの権威主義化：未完の国家建設と取り残された自由主義」	

1. 著者名 原民樹・西尾善太・白石奈津子・日下涉（編著）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 花伝社	5. 総ページ数 288
3. 書名 現代フィリピンの地殻変動	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	相沢 伸広  (Aizawa Nobuhiro)  (10432080)	九州大学・比較社会文化研究院・准教授   (17102)	
研究分担者	上田 知亮  (Ueda Tomoaki)  (20402943)	東洋大学・法学部・准教授   (32663)	
研究分担者	河原 祐馬  (Kawahara Yuma)  (50234109)	岡山大学・社会文化科学学域・教授   (15301)	
研究分担者	木村 幹  (Kimura Kan)  (50253290)	神戸大学・国際協力研究科・教授   (14501)	
研究分担者	鈴木 綱女  (Suzuki Ayame)  (60610227)	同志社大学・法学部・教授   (34310)	



6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	滝田 豪  (Takida Go)  (80368406)	京都産業大学・法学部・教授    (34304)	
研究分担者	中西 嘉宏  (Nakanishi Yoshihiro)  (80452366)	京都大学・東南アジア地域研究研究所・准教授    (14301)	
研究分担者	日下 渉  (Kusaka Wataru)  (80536590)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授    (12603)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 research seminar 'What SDGs make sustainable, development or dictatorship?'	開催年 2023年～2023年
---------------------------------------------------------------------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------